

# 離床センサー 現場レポート！

VOL.15  
Aug.2010

「離床センサーをお使いの現場から、様々な工夫をご紹介します！」

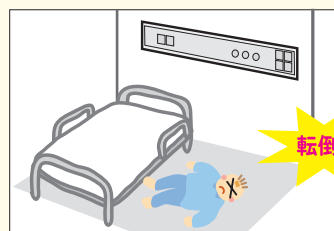
● 入院初期の患者様の夜間事故があり、スタッフで夜間ラウンドを行うものの、なかなかタイミング良く危険行動を発見することが出来ず困っていたK病院様。今回はK病院様はどのようにしてこの課題を解決されたかをご紹介します。

鹿児島県・K病院様

ご使用機種：赤外線コール（HIB-R）

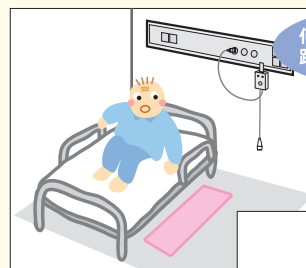
## 課題

入院初期の患者様の夜間事故が発生し、ラウンドを重ねるものの、危険行動を発見することができなかった。



## 対策

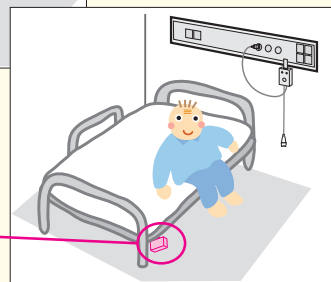
入院初期で転倒の危険性がある患者様にセンサー設置を検討するが、この患者様は意識が鮮明であり、目に見え、設置していることが意識されやすい床敷きセンサーの設置はプライドを傷つける恐れもあることから断念した。



何か敷いてある…  
踏むと看護師が来る…

そこで、センサーが患者様の目に付きにくく、気付かれにくい赤外線センサーを「夜間のみ」設置してみた。

フットボードに設置すると、さらに気付かれにくいですね！



## 効果

夜間ぐっすり寝ていると思われたこの患者様は、実は夜中に起き、ベッドを降りようとしていて、不穏行動を発見することができた。



## ちょっとポイント！

K病院様のように、ベッド下に赤外線コールを設置する際にはこんな点にご注意ください！

- \* 患者様やスタッフ、車いす通過時に当たって設置位置や向きが変わらないようにする。  
→フットボードに横向きではなく、下向きにぶら下げるように設置する。（右図参照）  
注）低床ベッドにぶら下げる場合は下げすぎて床と接触しないよう注意する。
- \* スタッフが検知範囲に入ることによる誤報を避けるため、センサーのスイッチを切ってから介助する。
- \* 設置するボードなどが厚い場合は、自在クランプのロングボルトも用意しています。



ご紹介している工夫は、全ての現場で有効というわけではありません。患者様の容態や現場の状況をご確認の上、ご参考下さい。